

## ドラッカーの小さな学校 開講! 2018年度(受講者報告その1)

主催者名: ドラッカー学会

日 時: 2018年10月27日(土)、第一日目

開催場所: 明治大学 研究棟第一会議室

内 容:

初日の講義は、大きく分けて二部構成であった。一部は「ドラッカー思想の現代的な意義」と題して、藤島理事から「マネジメントの基本と原則、企業の目的とイノベーション・サイクル説」が、井坂理事からは「時代観察と言論、基礎的視座の形成と展開」についての基調講演が行われた。講演後は森岡理事の司会で対談を行い、その後、質疑応答と意見交換が行われた。

藤島理事の文明論的視点からの「イノベーション・サイクル説」はインパクトが強かった。日常に流されることが多い中あまりにも新鮮な視点だったからである。井坂理事はドラッカーが生きてきた時代をタテの流れによる“ドラッカーの樹”の図解で説明されたが、視覚的にみてとてもわかりやすい図であった。いずれも時代という現実を冷静に見ることの大切さを教えてくれた。また、ある受講者のドラッカー思想の引用文の紹介発言には、日頃の問題意識の高さを垣間見た気がした。



第二部では、「ドラッカーマネジメントの現代的な意義とコーポレートガバナンス」と題し、藤島理事より「ドラッカーの見解①『企業は社会の信条・価値観と齟齬があってはならない』、ドラッカーの見解②『権力の正統性3つの原理』、コーポレートガバナンスをめぐる今日の問題」について、谷崎理事からは「今企業と社会で何が起きているのか、新しい組織とリーダーシップ、コーポレートガバナンスが必用なわけ、ドラッカーの視点」からの基調講演があった。そして、行本公認会計士は「MSCから見たコーポレートガバナンス(CG)の検証～T社とS銀行事案からの示唆～」について講演をされた。講演後は一部と同様に対談を実施し、その後受講者と講演者との意見交換を行った。

藤島理事が説明された「今日のコーポレートガバナンス論は『企業と社会』(社会倫理)、『企業と投資家』(企業効率)に問題が集約される」は、一般的には制度的な議論が多い中で実務者としては新たな発見であり方向性が見えなかった議論の落とし所を掴めそうな気がした。第一部で受講者から「ドラッカーは難しい」との発言があったが、谷崎理事はわかりやすい言葉で時にはユーモアを交えて講義された。また、行本公認会計士の2つの事案検証の「経営者のインテグリティ(真摯さ)がキーワード」との示唆には思わず心の中で拍手を送った。おそらく私だけではないと思いながら。意見交換では受講者から「最近不祥事の対応が多く、肝心の企業価値向上に向けたマーケティング等の話題が少ない」との発言があった。受講者を代弁しているような気がした。

以上は、講義の項目別に受講内容とその感想である。



以下は、第一日目のテーマを「ドラッカーマネジメント論の現代的な意義とコーポレートガバナンス」として捉え、講義全体をまとめたものである。まとめに際しては、このテーマを三分割にしてその三つに見合う言葉を選びそれらを再度組み合わせ、テーマをドラッカー風の質問に置き換えてみることにした。

一つ目の「ドラッカーのマネジメント論」のキーワードは、「企業の目的は顧客創造」である。二つ目の「現代的な意義」のキーワードは「われわれは今文明の大きな転換期にいる」であることから、「明日（文明の転換期）の企業の顧客創造」が一つの課題である。三つ目の「コーポレートガバナンス」(CG)のキーワードは、「会社はだれのものか」である。「コーポレートガバナンスは、哲学の問いでもなければ文化の問いでもない。社会と時代の要請によって決まる」、及び「社会と企業の信条・価値観は齟齬をきたしてはならない」ことから、昨今の企業の巨大化・不祥事、会社法・東証CGコード等の動向を踏まえると、今日のCGは、『『企業と社会』(社会倫理)、『企業と投資家』(企業効率)に問題が集約される』と。

ドラッカーは、“今、時代が大きく移り変わる中、社会のニーズに応えるために、われわれは企業価値と顧客をどのように造り出していくのか”と質問しているような気がした。

最後に私が当講座を受講した背景・理由について述べる。

私は「マネジメント・スコアカード」(MSC)という言葉を知ったのは2016年の4月初旬に初めて知った。会社のしくみ構築・評価に長く携わってきた経験から“MSCは実務に活用できる”と直感し、経営方針展開のしくみである「方針管理」(JIS Q 9023:2003)と森岡理事作成のMSCのフレームを比較した。概ね同じような内容であったが、方針管理にはMSCの要素、例えば「5つの重要な質問」の「われわれのミッションとは何か」を問うような項目がないことに気付いた。ものづくりの世界が長かったのか「わが社のミッションとは何か」等という本質論を問う時代はなかったと、その時はそう受け止めていた。しかし、その後外に出て・・・。

今日の第一部における“ドラッカー思想にもとづく時代の認識の大切さ、社会と共に生きることの意味、そしてわれわれの明日の企業価値と顧客とは何かを自問することの意義”を考えると、コンサルタントのツールとして活用していたマネジメント・スコアカード(MSC)をもっと深堀したくなった。

受講報告をまとめ終えた今、ジャーナリストでも経済・経営学者でもない“コンサルタントとしてのドラッカー思想とCG(特に「企業価値の創造」)に、MSCがどのように関わるのか”に興味を湧いてきている。

今日触れた外の空気は新鮮だった。次回(12/1)は「コーポレートガバナンス(CG)とマネジメント」の講演・演習だが、特に「MSCの本質」「MSCのケーススタディとワークショップ」が楽しみである。

御登壇頂いた理事・会計士の皆様及び進行役の理事の方には、この場を借りて感謝いたします。  
(若林 良樹)